様式(8)

論　文　内　容　要　旨

題目　Factors associated with anxiety and depression among caregivers of patients receiving medical home visits

(訪問診療を受けている患者の家族介護者の不安と抑うつに関連する要因について)

著者　Yoshihiro Okura MD, Chisato Takeuchi MS, Harutaka Yamaguchi MD, PhD, and Kenji Tani MD, PhD
2023 年 9 月発行　The Journal of Medical Investigation 第 70 巻 第 3,4 号に掲載予定
Article number: 70-097R1

内容要旨

【背景】

近年、日本では高齢化が進行し、独居高齢者や高齢の家族介護者が増加している。このため、地域包括ケアシステム構築の必要性が高まっており、訪問診療とともに、訪問介護や訪問看護などの訪問サービスが提供されている。このような状況において、介護者は重要な役割を担うと同時に、不安や抑うつなどの精神的な問題を抱えていることが報告されている。先行研究によれば、がん患者や脳卒中患者、認知症高齢者において、その介護者の不安と抑うつと、介護者の年齢、性別、健康状態、経済的要因などが関連していることが報告されている。しかし、訪問診療を受ける高齢患者では、その介護者の不安や抑うつと関連する要因についての研究は限られている。そこで、本研究では訪問診療を受ける患者の家族介護者を対象に、不安と抑うつの関連要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】

徳島県内の在宅医療施設のリストに掲載されている 239 医療機関に調査への協力を依頼した。そして、協力が得られた医療機関から定期的に訪問診療を受けている患者の家族介護者（同居家族、あるいは週 1 回以上患者宅を訪れる別居家族）を対象に質問紙票によるアンケート調査を実施した。家族介護者の不安と抑うつの評価は、Hospital Anxiety and Depression Scale（HADS）日本語版を使用し、そのサブスケールである HADS anxiety と HADS depression のそれぞれ 7 項目 21 点満点のうち 8 点以上を不安、抑うつと判定した。また、在宅医療環境に対する家族介護者の認識（「家計が安定しているか」、「介護者の健康状態が安定しているか」、「患者の状態が安定しているか」、「緊急時に医師が往診してくれるか」、「緊急時の看護師が来てくれるか」、「緊急時に入院できる病院があるか」、「利用できる介護サービスが

十分であるか」、「信頼できる相談相手がいるか」、「他の代替介護者がいるか」、「在宅療養に関する説明が十分にされたか」）を 5 段階のリッカート尺度で評価した。その他、家族介護者の性別、年齢、雇用形態、および患者の性別、年齢、介護者との関係、要介護度、疾病の数と種類、居住地域の情報を収集した。

【結果】

53 医療機関からの調査への協力を得て、家族介護者 379 人に対して調査を実施し、203 人から回答が得られ（回答率 53.6%）、うち 173 人を解析対象とした。家族介護者の性別は男性 48 人、女性 125 人で平均年齢は 66.2 歳だった。抑うつのある者の割合が 69.4%、不安のある者の割合が 43.9%で、不安と抑うつの両方のある者の割合は全体の 27.2%であった。不安のある者の割合は、患者が有する疾患数が多い場合に有意に大きくなった（$p<0.05$）。

家族介護者の認識についての多重ロジスティック回帰分析では、不安は安定した家計（オッズ比(odds ratio: OR)：0.69、95%信頼区間(confidence interval: CI)：0.48-1.00）、安定した介護者の健康（OR：0.45、95%CI：0.30-0.68）が有意に関連していた（$p<0.05$）。また、抑うつは、安定した家計（OR：0.60、95%CI：0.38-0.93）、安定した介護者の健康（OR：0.49、95%CI：0.30-0.81）、安定した患者の状態（OR：0.51、95%CI：0.29-0.92）と有意に関連していた（$p<0.05$）。

【考察】

本調査の結果から、訪問診療を受ける高齢患者の家族介護者においても不安と抑うつのある者の割合は高いことが示唆された。特に、家族介護者の精神的負担を軽減するために、経済的な負担の軽減や、家族介護者の健康にも配慮することが必要であると考えられる。